

第 5 回

熊本県議会

国際スポーツ大会推進特別委員会会議記録

令和2年2月18日

開 会 中

場所 第 1 委 員 会 室

第5回 熊本県議会 国際スポーツ大会推進特別委員会会議記録

令和2年2月18日(火曜日)

午後0時59分開議

午後1時51分閉会

本日の会議に付した事件

- (1) 2019 女子ハンドボール世界選手権大会熊本開催に関する件
- (2) ラグビーワールドカップ 2019 熊本開催に関する件
- (3) 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に関する件
- (4) 国際スポーツ大会の成功に向けた取り組みに関する件
- (5) 付託調査事件の調査終了について

出席委員(12人)

委員長 池田和貴  
副委員長 淵上陽一  
委員 藤川隆夫  
委員 城下広作  
委員 松田三郎  
委員 吉永和世  
委員 溝口幸治  
委員 西聖一  
委員 内野幸喜  
委員 高野洋介  
委員 橋口海平  
委員 松野明美

欠席委員(なし)

委員外議員(なし)

説明のため出席した者

国際スポーツ大会推進部

部長 寺野慎吾

政策審議監 千田真寿

国際スポーツ大会

推進課長 坂本久敏

国際スポーツ大会

推進課政策監 奥園栄純

知事公室

政策調整監 津川知博

くまモングループ課長 浦田美紀

総務部

首席審議員兼人事課長 小原雅之

私学振興課長 木村和子

企画振興部

地域・文化振興局長 倉光麻里子

企画課長 浦田隆治

地域振興課長 池永淳一

文化企画・世界遺産

推進課長 内藤美恵

健康福祉部

健康福祉政策課長 下山薫

健康危機管理課長 上野一宏

首席審議員兼

障がい者支援課長 永友義孝

環境生活部

首席審議員

兼環境政策課長 横尾徹也

自然保護課長 山下裕史

商工観光労働部

総括審議員兼政策審議監

兼商工政策課長 藤井一恵

観光経済交流局長 小金丸健

観光物産課長 上田哲也

首席審議員兼国際課長 波村多門

農林水産部

首席審議員

兼農林水産政策課長 渡邊泰浩

流通アグリビジネス課長 井上克浩

土木部

政策審議監 藤本正浩

監理課政策調整審議員 久保田健二

都市計画課審議員 弓削真也

教育委員会

教育理事 青木政俊

教育政策課長 上 塚 恭 司  
体育保健課長 西 村 浩 二  
警察本部

参事官兼警務課長 平 良 俊 司  
参事官  
兼生活安全企画課長 上 田 栄 治  
参事官兼地域課長 木 庭 俊 昭  
交通規制課長 原 田 聖 哉  
理事官兼警備第二課長 春 日 克 友

事務局職員出席者

政務調査課主幹 西 野 房 代  
政務調査課審議員 松 永 隆 則

午後0時59分開議

○池田和貴委員長 それでは若干時間前ですが、ただいまから第5回国際スポーツ大会推進特別委員会を開催します。

なお、本委員会に2名の傍聴の申し込みがあつておりますので、これを認めることといたします。

議事に入ります前に、先日前お亡くなりになりました県ハンドボール協会の島田会長について、吉永先生も一般質問でお触れになりましたが、この特別委員会も大変お世話になりましたので、少し触れさせていただきたいと思ひます。

島田会長におかれましては、昨年開催されました女子ハンドボール世界選手権の招致、準備に全精力を注いでいただき、本大会を大成功に導いていただいた功労者のお一人でございます。島田会長の御尽力なくしては、この世界大会の成功は実現しなかったものと思ひます。島田会長のこれまでの御功績に心より敬意を表しますとともに、御冥福を心よりお祈り申し上げたいと思ひます。

それでは、議事に入らせていただきます。

お手元に配付をしております本日の次第に従い、まず執行部から一括して説明を受け、その後、質疑は議題ごとに行いたいと思ひま

す。

なお、委員会の運営を効率的に行うため、説明につきましては着座にて簡潔にお願いします。

それでは、議題1、2019女子ハンドボール世界選手権大会熊本開催に関する件について、説明をお願いいたします。

○坂本国際スポーツ大会推進課長 それでは、お手元の本特別委員会資料に沿って御説明させていただきます。

議題1、2019女子ハンドボール世界選手権大会熊本開催に関する件について、まず1ページをごらんください。

1、大会開催概要につきましては、前回9月の委員会時と同様でございます。

それでは、2ページをごらんください。

観戦者数実績は、目標を上回り約31万6,000人となりました。

左側の表に、日ごと、会場ごとの観戦者数を記載しております。また右側の表に、これまでの女子大会の観戦者数を記載しており、今回の大会は第18回フランス大会に次いで2番目に多い数となりました。

3ページをごらんください。

全96試合の対戦結果と観戦者数及び今回と前回大会の順位表を記載させていただいております。

4ページをごらんください。

開閉会式等について記載しております。

大会名誉総裁の高円宮妃久子殿下及び寛仁親王妃信子殿下にも御観戦いただきました。

5ページをごらんください。

左側に優勝トロフィーとメダル、上位3チームの写真を掲載しております。

また、その右側の表は、熊本にお越しいただいた各国大使、総領事等の一覧でございます。

観戦とあわせまして、国際課において知事主催の昼食会や県内視察等を行っていただき

ました。

6ページをごらんください。

2、誘客対策でございます。

一番上の表にありますように、県内、県外、海外向けに広報・誘客対策を展開しました。その結果、中段の左側の表にありますように、観戦者数目標を達成し、その内訳としまして、海外観戦者数が約1割となり、当初目標の約3倍となりました。

また、一番下の左側の表にありますように、約8万7,000人の児童・生徒等が観戦しました。

その右側の下にありますように、チケット販売数は約10万5,000枚を見込んでおります。

その上の表にありますように、このうち約3万6,000枚がサポートカンパニー制度等によるものでございます。

次の7ページをごらんください。

誘客対策の取り組みのうち、WEBやホームページによる情報発信及びハンドボール関連イベントの開催について記載しております。関連イベントは、日本ハンドボール協会等により山鹿市ほかで実施され、社会人チームなど1,000人以上が参加、宿泊されるとともに試合を観戦いただきました。

8ページをごらんください。

3、大会ボランティアの活動でございます。

ボランティアに応募された2,216人のうち、1,951人の方々に活動に参加いただきました。内訳としては、女性が約65%、語学ボランティアも約30%などとなっております。

9ページをごらんください。

4、会場整備でございます。

県で整備した本設工事につきまして、赤で表示しております。国際基準を満たすものとなっております。あわせて、各種仮設工事による整備を行っております。

10ページをごらんください。

主な本設工事、仮設工事の会場整備の写真でございます。

11ページをごらんください。

5、練習会場等の確保でございます。

宿泊ホテルや試合会場の近くに、練習会場やトレーニングジムを確保し、利用いただきました。

また、国際連盟の要請に基づき、八代市内にはデユースホテルを準備いたしました。

12ページをごらんください。

6、広報活動でございます。

ラストスパートの機運醸成として、メダル、優勝トロフィーなどの巡回展示、各種ファイナルカウントダウンの取り組みを展開いたしました。

13ページをごらんください。

各種都市装飾の写真でございます。

14ページをお願いいたします。

大会情報の発信でございます。

主なものとして、国際ハンドボール連盟による記者会見と国内放送について記載しております。

また、一番下の米印にありますように、北欧のテレビ局など、海外においても広く放映されました。

15ページをごらんください。

7、ファンゾーン運営でございます。

熊本地震の情報を含め、熊本の食材提供や観光PRを実施いたしました。

また、環境や女性スタッフの活用、障害者の方々の参加などに配慮した運営を行いました。

16ページをごらんください。

ファンゾーンの各会場設置状況でございます。

運営実績の表の右上の合計にありますように、推計約7万6,000人の方々に御来場いただき、5,600万円余りの売り上げがございました。

17ページをごらんください。

8、宿泊輸送でございます。

(1)チーム・IHF（国際連盟）、(2)メディア・大会関係者を合わせまして、合計で1万6,700人余りの方々に宿泊いただきました。

18ページをお願いいたします。

交通アクセス利用状況でございます。

ハンドボールについては、自家用車などを中心とした輸送計画としましたが、無料のライナーバスにつきましても、ページの一番右下にございますように、延べ約1万3,500人の方々に利用いただきました。

19ページをごらんください。

ライナーバスと学校応援バスの運行台数及び駐車場利用状況について、整理させていただいております。

20ページをごらんください。

9、選手等との交流、おもてなしでございます。

(1)事前キャンプの実施につきましては、県内では、熊本市、水俣市、人吉市、天草市においてキャンプが実施されました。

21ページをごらんください。

出場チームとの各種交流について、まとめさせていただいております。

22ページをお願いいたします。

その他の交流としまして、フランスチームの応援等のために訪れたニューカレドニアのチーム、仏領ギアナの中学生との交流について記載しております。

23ページをごらんください。

(3)おもてなし事業でございます。

選手やメディア関係者に熊本の文化などに触れていただくため、大会期間中の休息日にくまもとおもてなしDAYを開催し、着物の着つけ、書道、茶道、華道などを体験いただきました。

24ページをごらんください。

エクスカッション等の実施でございます。

選手や役員、延べ445人の方々に、熊本城

や阿蘇、天草へのエクスカッションに参加いただきました。その他の地域につきましても、11コースを掲載したチラシによるPRを行いました。

25ページをごらんください。

国内外のメディア向けに、メディアキットの配布、メディアカフェ、エクスカッションなどにより、熊本の情報、魅力を発信しました。

一番下のウェルカムカードにつきましては、障害者支援施設やボランティアにより作製し、選手団などの宿泊ホテルの客室に配布しました。

26ページをごらんください。

上のほうに、そのカードなどの配布について写真を掲載しております。

下段の「エ」につきましては、花によるおもてなしについて記載しております。

27ページをお願いいたします。

上段は、県内の農業高校等による花のおもてなしでございます。

下段は、選手や大会関係者に熊本市内を周遊いただくために、市電乗車券を配布したものでございます。2,170名余りの方々に御利用いただきました。

28ページをお願いいたします。

民間団体と連携したおもてなしグッズの作製として、多言語の指差しシートとタペストリーを作製し、飲食店やホテルなどで活用いただきました。

下段は、観戦用グッズとして作製したハリセンとかぶとでございます。かぶとは、島田会長みずからが作製されたものです。

29ページをごらんください。

大会の運営体制でございます。

延べ1万4,000人余りのスタッフが、各種業務に従事しました。このほか、警備会社の警備員延べ2,000人余りなども従事しております。

議題1につきましては、以上でございます。

す。

○池田和貴委員長 次に、議題2、ラグビーワールドカップ2019熊本開催に関する件についての説明をお願いいたします。

○坂本国際スポーツ大会推進課長 引き続きまして、ラグビーワールドカップ2019熊本開催に関する件について、御説明いたします。

30ページをごらんください。

次の31ページにかけまして、1、大会開催概要について記載しております。

下の31ページの中段にありますように、観客動員数は、全国で延べ170万4,000人余り、チケット販売数は、約185万枚中184万枚となっております。

熊本の試合につきましては、10月6日、13日、合わせて約5万5,800人の方々に観戦いただきました。出場国の駐日大使等にも、御観戦いただいております。

次の32ページをお願いいたします。

全国の会場別観戦者数一覧と、入場率について記載させていただいております。

33ページをお願いいたします。

チケット販売でございます。大会開幕後の全国的な盛り上がりの中で、さまざまな誘客対策を実施しました結果、2試合ともチケットを完売しました。

左下の表にありますように、観戦者の割合は県内40%、県外35%、海外25%程度と推計され、当初目標と比べ県外、海外の割合が大きくなりました。

34ページをごらんください。

3、ボランティアについてでございます。

熊本会場では、約500人が採用され、2回の試合それぞれ450人余りの方々に活動いただきました。

35ページをごらんください。

4、会場整備でございます。

表の右に「県」とありますように、ラグビー

につきましては本設工事のほうが多く、えがお健康スタジアムは、国際基準を満たした施設となりました。

36ページをお願いいたします。

5、広報活動でございます。

開幕直前の機運醸成としまして、各種都市装飾を実施させていただきました。

次に、37ページをごらんください。

6、ファンゾーン等の運営でございます。

「祭りアイランド九州」との相乗効果もあって、5万人を超える方々に来場いただきました。

次の38ページをごらんください。

細かい表になっておりますが、右側の表の一番右下のほうにございますように、ハイネケンなどのスポンサーを除く一般ブースとPRブースの合計で1,460万円余りの売り上げがございました。

39ページをお願いいたします。

下段に、パブリックビューイングについて記載しております。

本県での試合終了日にファンゾーンを閉じましたが、日本代表の活躍を受けまして10月20日に日本対南アフリカ戦のパブリックビューイングを県内4会場で実施し、約2,200人の方々に楽しんでいただきました。

40ページをごらんください。

会場周辺のいこいの広場でもおもてなしイベントを開催し、また下段にありますように「祭りアイランド九州」と連携したPR活動も実施しました。

41ページをごらんください。

7、受け入れ、交通輸送でございます。

ファンゾーンや交通拠点にインフォメーションセンターを設置し、また、あわせてコールセンターを設置して、問い合わせ対応を行いました。

コールセンターの利用は、約1,300件でした。

42ページをごらんください。

交通輸送実績でございます。

表が見にくいですが、ラグビーにつきましては、パーク&バスライドなどを中心とし、バス利用者が、右側の表に人数が書いてございますが、これを合計しますと熊本での試合両日は、往復ともおおむね1万7,000人余りずつとなっております。帰りはタクシー利用者も多かったのですが、タクシー協会の協力を得て対応することができました。

43ページは、各拠点の対応の様子でございます。

44ページをごらんください。

8、公認キャンプの実施でございます。

県民の皆様と各種交流を深めていただきました。

45ページをごらんください。

9、地域交流、おもてなしでございます。

(1)地域交流事業につきましては、出場国・地域の選手などを中心として、各種交流事業を実施していただきました。

下段の(2)各種おもてなしの取り組みとしまして、農林水産部において新市街商店街振興組合と連携して、本県の農林水産品や特産品をPRするイベントを開催しました。

次の46ページをお願いいたします。

メディア交流会の開催でございます。

熊本を訪れた国内外のメディアの方々との交流会を開催し、熊本の魅力をPRしました。

なお、一番下の表にありますとおり、ウェールズ政府日本代表が1月下旬に来熊され、ラグビーワールドカップを契機とした交流の促進について関係者と協議いただきました。

47ページをお願いいたします。

10、大会運営体制でございます。

右側の表の右下にありますように延べ570人余りのスタッフが大会運営に従事しました。

また、このほか警備会社の警備員が980人余り従事するなどしております。

議題2につきましては、以上でございます。

○池田和貴委員長 次に、議題3、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に関する件について、説明をお願いいたします。

○坂本国際スポーツ大会推進課長 議題3、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に関する件について、御説明いたします。

48ページ、49ページをごらんください。

大会概要及びチケット販売の概要について、簡単にまとめております。

続きまして、50ページをお願いいたします。

3、キャンプ地の誘致でございます。

現在の誘致状況をまとめております。県、熊本市、玉名市、八代市、菊池市の状況につきまして、次の51ページにかけまして最近の状況を記載させていただいております。

続きまして、52ページ、53ページをごらんください。

4、選手育成に関することでございます。

(1)オリンピック選手育成事業につきましては、体育保健課、(2)パラリンピック選手育成・強化推進事業につきましては、障がい者支援課において取り組みを進めております。

まず、(1)オリンピックにつきましては、上の52ページ下段の表に、昨年9月以降の育成指定選手選考競技成績をまとめさせていただいております。

次に、(2)パラリンピックにつきましては、一番下の表に育成・強化指定選手の最近の主な活躍状況をまとめております。

一番下の平井選手の成績を、新しく加えております。

次に、54ページをお願いいたします。

5、機運の醸成に関することございま

す。

右下の写真にありますように、12月15日に「ラグビー・ハンドボールの熱気をオリ・パラへ」と題しまして、シンポジウムを開催しております。

56ページをごらんください。

(2) 県内の聖火リレールートのご要です。

昨年12月に、組織委員会から全国の聖火リレーの詳細ルートが発表され、その概要を記載しております。各実施市町村において、2日間で合計25キロメートル余りのリレーが実施されるということで、スタート地点、ゴール地点、距離、セレモニー会場を、56ページ、57ページに記載しております。合計で、25キロメートル余りでございます。

58ページをごらんください。

(3) 聖火ランナーのご要です。

下段の上のほうにありますように、県内を走行するランナーは170名余りで、うち43名プラス1グループが県実行委員会枠、その他はスポンサー枠などでございます。1グループは、東海大学九州キャンパスの農学部などの学生でございます。

59ページをごらんください。

一番下の下段に、⑥県内を走行する著名なランナーを記載させていただいております。

60ページをごらんください。

7、パラリンピック聖火リレーでございます。

(1) 採火式につきましては、8月中旬に県内25市町村で実施予定となっておりますが、今後この市町村につきましては若干追加の可能性がございます。

(2) 集火式・出立式につきましては、県実行委員会において熊本市内で実施予定でございます。

聖火リレーは、各都道府県の火を東京に集め、それぞれの代表ランナーが走行して行われることとなっております。

議題3につきましては、以上でございます。

○池田和貴委員長 次に、議題4、国際スポーツ大会の成功に向けた取り組みに関する件についての説明をお願いします。

○坂本国際スポーツ大会推進課長 議題4、国際スポーツ大会の成功に向けた取り組みに関する件について、御説明いたします。

61ページをごらんください。

1、国際スポーツ大会推進部の取り組みについてでございます。

(1) 大会開催による成果、今後につながるレガシーにつきまして、本県が策定しましたレガシープログラムで定めた4つの方向性、①震災からの復興の姿の発信、②スポーツの普及と振興、③インバウンド観光の推進、④国際交流の促進、に基づき各種取り組みを実施しました。

次の62ページをごらんください。

まず、イ、国際大会運営のノウハウとしまして、女子ハンドボール大会とラグビーワールドカップの運営ノウハウを得ることができました。

次に、受け入れ環境整備の取り組みとしまして、63ページから64ページにかけまして記載しておりますように、①プロトコール（国際儀礼）職員研修等、②感染症対策研修、③熊本市電乗務員向け語学研修、④防災訓練などを実施しました。

64ページの下段から、65ページをごらんください。

ウ、施設の改修でございます。

下の65ページの左側の表に、女子ハンドボール大会の本設工事など、右側の表にラグビーワールドカップの本設工事などについて、まとめさせていただいております。

続きまして、66ページをごらんください。

(2) ラグビーワールドカップ2019の熊本開



催に係る経済波及効果についてでございます。

表にありますように、合計約107億円となりました。事前の試算約98億円より大きい数字となっております。これは、想定よりも県外や海外からの観戦者が多く、また消費額が高くなったことなどによるものでございます。

なお、ハンドボールの経済波及効果については、3月中に公表できるよう集計中ですが、海外観戦者が多かったことなどから、こちらも事前の試算約92億円より大きくなると見込んでおります。

国際スポーツ大会推進課の説明は、以上でございます。

○波村国際課長 国際課長の波村でございます。

私からは、海外からの誘客の取り組みについて説明いたします。

資料67ページをお願いいたします。

海外からの誘客につきましては、以下のようターゲット国を定めまして、FIT対策に重点を置きつつ、現地旅行会社への旅行商品造成や、くまモンを活用するなど、熊本県そのものの認知度アップに向けた働きかけを行ってまいりました。

その結果でございます。68ページをお願いいたします。

ラグビーワールドカップ期間中の宿泊の状況について報告いたします。

昨年12月に発表されました国の宿泊旅行統計調査によりますと、ラグビーワールドカップの試合が熊本でありました2019年10月の統計結果によりますと、欧米豪からの宿泊客は、前年10月の4,920人から2万1,920人と、1万7,000人も増加いたしまして、445%の伸びを記録しております。

内訳を下の表に掲載しておりますが、イギリスが対前年同月比5,750人増で1,502%の伸

び、フランスが対前年同月比5,910人増で877%の伸び、オーストラリアが対前年同月比で1,380人増で319%の伸び、このほかニュージーランド等が対前年同月比で3,960人増で226%の伸びとなっております。

次に、期間中の県内観光地の状況についてですが、熊本城は特別公開の効果もありまして、対前年同月比で150%の集客増となっております。

このほか、阿蘇の黒川温泉、天草のイルカウォッチングにも多くの欧米系の方々の観光客が訪問されたというふうに聞いております。

なお、ハンドボールにつきましては、2月末の国の統計結果の発表を受けて、整理を行うこととしております。

次に、これまでの取り組みについてでございますが、令和元年9月に開催されました特別委員会以降、さまざまな取り組みを行っておりますが、本日は2つほど紹介させていただきます。

70ページをお願いいたします。

4番でございますが、オンライントラベルエージェントのExpediaとタイアップした旅行中の外国人観光客へ向けたプロモーションを実施したところでございます。

次に、71ページをお願いいたします。

8番でございます。九州観光推進機構等と連携して、フランス人インフルエンサーを招請し、人吉のみそ蔵や熊本城などの情報発信を行ったところでございます。

このほか、76ページまで、さまざまな取り組みを展開しております。

最後に、今後の取り組み方針でございます。77ページをお願いいたします。

今後の欧米豪からの誘客につきましては、FIT対策に重点を置きつつ、引き続き旅行商品造成、熊本県のPRに働きかけを行ってまいりたいと思っております。

それとともに、阿蘇へ向かう道路、鉄道の

復旧、熊本城の特別通路の整備及び天守閣の完全復旧、内部公開、熊本駅ビルの開業など、新たなコンテンツを活用したプロモーションを強化してまいりたいというふうに考えております。

今回の国際スポーツ大会開催の経験から得た、海外からの誘客に関するノウハウを生かし、今後とも多くの方々に熊本へお越しただけるよう、しっかりと取り組んでまいりたいと考えております。

私からの説明は、以上でございます。

○渡邊農林水産政策課長 農林水産政策課でございます。

資料79ページをお願いいたします。

農林水産部におきます県産食材等の供給に向けた取り組みでございます。

(ア)県内開催のラグビーワールドカップ及び女子ハンドボール世界選手権大会に関する取り組み実績でございますが、①のとおり、選手団に対してあか牛等の県産農畜産物、フラワーアレンジメント、国旗を刺しゅうしたイグサ製品等を贈呈するとともに、②のとおり、大会前夜祭や会場VIP待合室に県産農産物による装飾を設置するなどの取り組みを行いました。

また、③のとおり、パークドーム正面入り口に設置しました、右下の写真にあります、くまモンの県産農産物で装飾したオブジェでございますが、これは観客のSNS等を通じまして情報発信がなされ、PRにつながったところでございます。

80ページをお願いいたします。

④のとおり、ファンゾーン等におきまして県産牛肉、ジビエ料理、温州ミカン等の県産農畜産物の販売・PRや、県産のお茶、畳表による和のおもてなしなどを行いました。

さらに、山鹿会場では山鹿茶や山鹿和栗、八代会場では畳表等、地域特産物の魅力発信も行いました。

また、⑤のとおり、生花によるおもてなしや、⑥のとおり、県内飲食店の協力を得て、地産地消フェアを開催いたしました。

続きまして、下の81ページは、東京オリンピック・パラリンピックに向けた取り組みでございます。

①のとおり、食材採用に向けた飲食提供事業者への働きかけとして、8月に引き続きまして、11月に東京豊洲市場で2回目のくまもとGAPフェアや熊本の養殖魚PRイベントを開催いたしました。

また、②のとおり、食材採用に向けた各種分野におけるGAP等の認証取得を推進しているところでございます。

82ページをお願いいたします。

③のとおり、選手村ビレッジプラザや国立競技場に県産木材が使用されているところでございますが、一番右の写真にありますとおり、1月29日には小野副知事や関係県会議員の先生方の御出席のもと、県名が刻印されました木材が使用されているビレッジプラザの内覧会が行われたところでございます。

下段にありますとおり、今後の取り組み予定といたしまして、引き続き飲食提供事業者等への売り込みPRを図りながら、調達基準を満たす品目と生産量の拡大を推進してまいります。

農林水産政策課からは、以上でございます。

○上野健康危機管理課長 健康危機管理課でございます。

資料83ページをお願いいたします。

国際スポーツ大会に係る食中毒、感染症等衛生に関する取り組みについて、御説明いたします。

前回委員会以降の取り組みについて、御説明申し上げます。

まず、①食中毒の未然防止に係る取り組みについてでございますが、2ポツ目、大会事

務局と連携し、「2019女子ハンドボール世界選手権大会食品衛生対策実施要領」を作成し、選手宿泊施設や飲食物提供事業者などに対し説明会を開催するとともに、県が所管する選手宿泊施設6施設及びケータリング実施施設2施設に対し立入検査を実施し、山鹿市会場、八代市会場の臨時飲食店に対して、各3回立入検査を実施しております。

次に、②感染症の蔓延防止に係る取り組みについてでございますが、3ポツ目、ダニが活発に活動します9月に、ダニ媒介感染症のリーフレットを作成いたしまして、大会関係者や医療機関などの関係機関に配布するとともに、注意喚起を行ったところです。

次に、③健康危機発生に備えた体制整備についてですが、次ページ84ページの中ほど、サーベイランス体制の強化と記載しております。

サーベイランスは、感染症発生动向調査体制の強化ということで、擬似症サーベイランス体制の構築を行ってまいりました。これは、万が一原因不明の感染症の疑いがある患者が発生した場合に、診察した医療機関から保健所に直ちに届け出させていただくもので、特に外国からの旅行客等が受診すると考えられる県内の15医療機関を指定しているところでございます。今回の新型コロナウイルス感染症についても、届け出基準に合致する症例があった場合には、迅速に保健所に届け出をいただくことにしております。

特に、事前に保健所に連絡せずに受診した場合にも、この制度により迅速に対応することが可能になっているところでございます。

この擬似症サーベイランスにおきましては、現在のところ幸いに届け出はあっておりません。

なお、この制度とは別に、現在、帰国者接触者外来を県内17医療機関にお願いしまして、新型コロナウイルスに感染した疑いのあ

る患者につきましては、専門に受け入れる体制を整備しているところでございます。

新型コロナウイルス感染症対策につきましては、東京オリンピック・パラリンピックに関しましても、国や組織委員会でさまざまな対策が講じられており、これを受けまして、県といたしましても情報収集や情報提供等、適切な対応を行うこととしております。

以上でございます。

○上塚教育政策課長 教育政策課でございます。

86ページをお願いします。

国際スポーツ大会に係る教育委員会等の取り組みについて、御説明いたします。

ア、競技の普及活動、情報発信等をごらん願います。

③諸会議における情報発信につきましては、各種会議の機会を捉え、大会の基本情報を初めチケット購入方法やイベント等の紹介とともに、再度、観戦依頼を行いました。

87ページをお願いします。

イ、一校一國運動の取り組みをごらん願います。

枠囲みに記載してあります一校一國運動の3本柱である、1、大会事前事後学習、2、交流学习、3、応援国学習の取り組みを進めました。

主な取り組みについて御説明いたします。

③食育による取り組みとしまして、学校給食において、大会出場国の料理を提供することを通して、児童生徒の国際理解を深めました。

88ページをお願いします。

④女子ハンドボール世界選手権大会学校観戦ですが、大会に向けて9月に学校観戦応援グッズの作製、10月に試合会場で行われる学校観戦イベントの参加者募集、11月に部活動観戦の招待者募集を実施しました。

大会期間中は、国際理解や交流を深めると

ともに、各学校が工夫した応援を行い、8万人を超える児童生徒が大会を盛り上げました。

以上でございます。よろしく申し上げます。

○春日警備第二課長 県警の取り組みについて御説明いたします。

資料89ページでございます。

まず、安全・安心な大会開催に向けた警備諸対策でございますが、ラグビーワールドカップ及び女子ハンドボール世界選手権大会の警備につきましては、国際スポーツ大会推進事務局や警備担当者など、関係機関と緊密に連携するとともに、県警機動隊や、写真にありますとおり警察犬なども動員し、大会当日は万全の体制で挑み、特段の事故等もなく警備を完遂できました。

大会に向けて当初予算で整備していただいた車両突入阻止装備資機材等につきましては、今後も国際スポーツ大会のレガシーとして、大規模警備に活用してまいりたいと思っております。

続きまして、交通関係についてでございますが、交通安全施設の整備や交通総量抑制対策、また警察官の流動警戒や主要交差点における交通整理などを実施した結果、特段の支障もなく円滑な交通を確保できたと思っております。

また、繁華街対策の強化につきましては、関係機関、団体と連携した繁華街対策を強力に推進した結果、大会期間中、特異事案の発生などもなく、客引きなどもかなり抑え込むことができたと思っております。

県警からは、以上でございます。

○池田和貴委員長 以上で執行部からの説明が終わりましたので、質疑に入ります。

まず、1、2019女子ハンドボール世界選手権大会熊本開催に関する件について、何かご

ざいませんでしょうか。

ないようでございますので、次に、2、ラグビーワールドカップ2019熊本開催に関する件について、質疑はありませんか。ありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○池田和貴委員長 はい。なければ、次に、3、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に関する件について、質疑はありませんか。ありませんか。よろしいですか。

はい。なければ、次に、4、国際スポーツ大会の成功に向けた取り組みに関する件について、質疑はありませんか。（発言する者あり）

なければ、質疑はこれで終了したいと思いますが、よろしいですか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

○池田和貴委員長 はい。次に、本委員会に付託されました調査事件について……

はい。部長どうぞ。

○寺野国際スポーツ大会推進部長 私から、2点ほど発言させていただいていいですか。

○池田和貴委員長 はい。

○寺野国際スポーツ大会推進部長 まず資料をお配りします。

（資料配付）

きょう、委員会の冒頭で池田委員長から県ハンドボール協会の島田会長についてお話がございました。また、本会議では吉永委員から、「島田会長の多大な御功績に対して、県としても顕彰すべきではないか」との質問に、知事が、「島田さんの御功績を讃える表彰をしたいと考えています」と答弁したところでございます。

そのことにつきまして、お手元の資料のとおり「熊本県スポーツ特別功労賞」としまして、来る2月26日午後3時から、知事から御

家族に対して表彰を行うこととなりましたので、御報告申し上げます。

県としましても、島田会長のこれまでの御功績に対して少しなりとも報いることになればと思っております。

引き続きまして、御礼でございます。

ラグビーワールドカップ、女子ハンドボール世界選手権大会は、特別委員会を初め県議会、そして多くの関係者の皆様の力強い御支援、御協力のおかげで、円滑に運営を進めることができました。あわせて、観戦者数も目標を達成しまして、大成功をおさめることができました。

委員の皆様方を初め県議会の皆様に、心から御礼申し上げます。ありがとうございます。

2つの大会で得られましたさまざまなノウハウは、本県にとり貴重なレガシーでございます。これを関係者としっかり共有し、継承してまいります。本当にありがとうございます。

以上でございます。

○池田和貴委員長 はい、お疲れさまでした。

ほかにございませんか。はい。ないようでございますので、次に、本委員会に付託されました調査事件について、お諮りをいたします。

昨年10月から12月にかけてラグビーワールドカップ2019及び2019女子ハンドボール世界選手権大会が開催されましたが、これら2つの国際スポーツ大会が大成功をおさめることができ、本委員会も責任の一端を果たすことができたのではないかと考えております。

また、ことしの夏に開催予定の東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会についても、県内でのオリンピックの聖火リレーやパラリンピックの聖火フェスティバルなど、現在、滞りなく準備が進められております

が、今後は引き続き所管の常任委員会で議論されていくものと思います。

そこで、これらの状況を考慮した結果、今回をもちまして本委員会に付託されました調査を終了したいと思っております。

この旨を熊本県議会会議規則第84条の規定に基づき、議長に報告することとしてよろしいでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○池田和貴委員長 御異議なしと認めます。

それでは、本委員会は今回をもって終了することに決定をいたしました。

その旨、議長に報告することといたします。

次に、その他として何かございますか。

○内野幸喜委員 すみません。本当に皆様お疲れさまでした。

今、池田委員長から話がありましたが、この国際スポーツ大会推進特別委員会が3月末をもってなくなるということで、それぞれの所管の常任委員会で国際スポーツ大会は引き継がれる。

今議会で、知事が2023年の女子サッカーワールドカップのキャンプ地を誘致したいという話がありましたので、その件について聞きたいと思っております。

まず、日本開催がいつ決まるのか、今回キャンプ地というふうに明言されましたけれども、積極的に大会のほうは誘致しないのか、あと、今回熊本は、先ほど部長も言われたけれども、いろんなノウハウを得られたと思いますし、また、課長からも、スタジアムが国際基準を満たすようになったということで、主催者側から、どうかという話があるかもしれないと思うのですけれども、そうなった場合、その点について、お話を聞かせていただければと思います。

○坂本国際スポーツ大会推進課長 では、先

に私から御説明させていただきます。

開催地の決定時期につきましては、ことし6月ということで伺っております。

それから、キャンプ地の誘致を目指すということで申しております、試合会場は目指さないのかということでございますが、これにつきましては、日本サッカー協会のほうで、専用の競技場等ということで、今、8スタジアムを既に予定されておまして、その他、本県と同じようにキャンプ地としまして40会場ほどが希望を出しているという状況でございます。

○寺野国際スポーツ大会推進部長 若干補足させていただきます。

ラグビーの試合の成功をもって、私が、日本サッカー協会に行きまして、専用競技場しかだめだと。そのときは10会場でございました。今、8に減らされまして、1会場は国立が入っていますけれども、本当はないのかという話をしました。

開催されるとすると7月から8月の頭ぐらいだそうです。運営としては、暑いからもっと前にしてくれという話も、決まったらしていくと。その中で、Jリーグの重なる時期がきますので、そのときには、Jリーグが持っている会場もなっていますので、うちは辞退するという可能性もなきにしもあらずという話も、ここだけの話されまして、じゃ、うちを競技地として登録してくれという話はしております。

ただ、競技地は、一昨年日本代表の大分の試合は、非常に交通渋滞があつて、うちも似ているのではないかと、非常に危惧されておまして、今回は手上げ式ではなくて、日本協会のほうで、経験値から専用競技場ということで、今のところは入る隙間はありませんが、何かあったらうちもお願いしますという話はさせていただきます。

○内野幸喜委員 はい、わかりました。

○池田和貴委員長 内野委員、よろしいですか。

ほかにありませんか。

ないようでございますので、これをもちまして本委員会の審議を終了します。

ここで、閉会に当りまして本日が最後の委員会でございますので、一言御挨拶させていただきます。

3つの国際大会が行われることが決定して、この特別委員会が平成27年6月に設置されました。それ以来、多くの先生方が委員として関わってこられて、また執行部の皆さん方も、ここにお集まり以外の方も、本当に御尽力をいただきました。

当初は大分、県庁内の連携も心配されたところでございますが、大会が近づくにつれて、全庁一体となってやっていただきまして、大会期間中の皆さん方の本当に御活躍、それと献身的な働きは、私も一観客として、いろんな会場で拝見をさせていただきました。

本当に、お疲れさまでございました。

先ほど、部長の御挨拶にもございましたように、多くのレガシーを熊本県は今回の大会を開催することによって得たと思っております。

先ほどのお話の中に1つ加えるとすると、熊本市や八代市、山鹿市の職員さんも派遣をさせていただいて、ここでやられておりましたので、そういった意味では熊本県とそういった市町村のつながりも、これで非常に深くなったのではないかとこのように思います。

これも大きなレガシーの一つではないかというふうに思っております。

本当に皆様方には、大変お疲れさまでございました。

委員の先生方にも本当にきゅうきゅうにチケットのお願いとかそういったこともさせて

いただきましたが、本当に快くいろんな形で御支援をいただきましたことに、心から感謝を申し上げたいというふうに思います。

この委員会は、これで終了することになりますが、残されたことについては、各常任委員会で、引き続き審議をされるということでございます。

ぜひ、皆様方にはそれぞれの委員会で、今回の経験を踏まえて頑張っていたいただければというふうに思っているところでございます。

最後になりますが、このレガシーを生かして、ぜひ今後、熊本がさらに発展することに、皆様方が御活躍されますことを心から願ひまして、また淵上副委員長を初め委員の先生方の御協力を心から感謝を申し上げまして、最後の御挨拶にさせていただきたいと思ひます。

本当に、お世話になりました。ありがとうございました。（拍手）

では続きまして、副委員長にも御挨拶をお願いしたいと思います。

○淵上陽一副委員長 この1年間、池田委員長を初め委員の皆様方の御支援、御協力によりまして、副委員長の任を無事に果たすことができたというふうに思っております。

また、執行部の皆様にも真摯に御対応いただいたことに、心から感謝を申し上げたいというふうに思ひます。

ラグビーまたハンドボールともに大成功に終わったことは、大変うれしく思っております。

大会期間中は、海外から多くの選手や観客が熊本を訪れ、また、一校一国運動を初め、山鹿では、一校区一国運動もやらせていただきました。その取り組みによって、国際交流が活発に行われたものと思っております。

これから、この2つの国際大会を契機に熊本と世界がつながり、さらに深まることを願っております。

皆様方におかれましては、健勝に御活躍をされますことを心から祈念をいたしまして、この1年間大変お世話になりましたことに、御礼の言葉にかえさせていただきたいというふうに思ひます。

大変お世話になりました。ありがとうございました。（拍手）

○池田和貴委員長 皆さん、ありがとうございました。

それでは、これを持ちまして本日の委員会を閉会いたします。お疲れさまでございました。

午後1時51分閉会

熊本県議会委員会条例第29条の規定によりここに署名する

国際スポーツ大会推進特別委員会委員長